

授業科目名： インクルーシブ教育 実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田部 絢子 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、インクルーシブ教育・特別支援教育に関する制度及び教育課程をふまえ、多様な教育的ニーズのある児童生徒へのより高度な教育実践に資する専門的知識や技能の獲得を図ることを目的とする。とくに、多様な教育的ニーズに対して、特別支援教育コーディネーターや他の教員及び家庭や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法の修得と理解の深化を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、小・中学校、高校に在籍する多様な教育的ニーズのある児童生徒が有する発達上の困難・支援ニーズに対し、関係機関や家庭等と連携しながら支援体制を構築するための理論と方法を探求することがねらいである。そのことを通して、子ども・保護者・教師等が抱える多様な困難・課題の本質理解と今後を展望するための基礎を形成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育・インクルーシブ教育の概念（1）国内外の動向（サラマンカ声明、障害者の権利に関する条約等）</p> <p>第2回：特別支援教育・インクルーシブ教育の概念（2）国内外の動向（法制度・政策・学習指導要領等）</p> <p>第3回：特別支援教育・インクルーシブ教育の課題（1）義務教育（小中学校、特別支援学校小中学部）</p> <p>第4回：特別支援教育・インクルーシブ教育の課題（2）後期中等教育（高校、特別支援学校高等部）</p> <p>第5回：特別支援教育・インクルーシブ教育の課題（3）後期中等教育以降（高等教育、生涯学習、就労）</p> <p>第6回：特別支援教育・インクルーシブ教育の課題（4）事例研究</p> <p>第7回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（1）知的障害（境界知能を含む）・学習障害</p> <p>第8回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（2）精神疾患（摂食障害・抑うつ・心身症等）</p> <p>第9回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（3）病気療養・医療的ケア</p> <p>第10回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（4）不登校・引きこもり</p> <p>第11回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（5）被虐待・愛着形成の困難</p> <p>第12回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（6）非行・触法を伴う社会的不適応</p>			

第13回：多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育（7）事例研究

第14回：多様な教育的ニーズと家庭・関係機関との連携（1）関係機関、専門職、ネットワーク

第15回：多様な教育的ニーズと家庭・関係機関との連携（2）事例研究

定期試験

テキスト 特になし

参考書・参考資料等

加瀬進・高橋智（2019）『特別支援教育総論』放送大学教育振興会。

高橋智・加瀬進監修／日本特別ニーズ教育学会編（2020）『現代の特別ニーズ教育』文理閣

学生に対する評価

定期試験：70％、レポート：30％

授業科目名： 特別支援学校の教科指導研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武居 渡 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域:聴、含む領域:知・肢・病)		
授業のテーマ及び到達目標 言語獲得と数概念の発達についての基礎的知識を得、障害のある子どもの国語と算数の教科内容や単元を具体的に提案できる。			
授業の概要 前半では障害のない子どもの言語獲得と数概念の発達過程を文献を通して学び、後半にはこれらの知見をふまえ、聴覚障害や肢体不自由、知的障害のある子どもの教科学習の単元を各自で提案し、議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 問題意識の共有 第2回：障害のない子どもの言語獲得過程（1）－初期言語獲得－ 第3回：障害のない子どもの言語獲得過程（2）－語彙と文法の獲得－ 第4回：障害のない子どもの言語獲得過程（3）－読み書きの前提となる知識の獲得－ 第5回：聴覚障害児の手話獲得 第6回：障害のない子どもの数概念の発達（1）－数の基礎の獲得－ 第7回：障害のない子どもの数概念の発達（2）－数概念の発達－ 第8回：ろう学校における国語の授業づくり（1）－コミュニケーションの発達と支援－ 第9回：ろう学校における国語の授業づくり（2）－読み書きの発達と支援－ 第10回：ろう学校における算数の授業づくり（1）－計算の指導－ 第11回：ろう学校における算数の授業づくり（2）－文章題の理解と解法に関する指導－ 第12回：肢体不自由特別支援学校における国語の授業と配慮事項 第13回：肢体不自由特別支援学校における算数の授業と配慮事項 第14回：知的障害特別支援学校における国語の授業と配慮事項 第15回：知的障害特別支援学校における算数の授業と配慮事項			
テキスト 文部科学省（2020）聴覚障害教育の手引き			
参考書・参考資料等 授業の内容に応じて適宜参考となる文献を紹介する。			

学生に対する評価

小レポート4回 (10点×4) と最終レポート (60点)

授業科目名： 特別支援コーディネータ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川 一義
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 (中心となる領域：発達、含む領域：知・肢・病)		
授業のテーマ及び到達目標 要支援児童に即して、問題の改善/解消に向けた有効な方法論（面談/行動観察/基礎資料の収集/支援の企画と実施/支援会議の設定と進行の一連の方法）を学び、実施できる。			
授業の概要 障害のある子どもが抱える問題には、学習の困難さやこれに基づく心の問題への支援だけでなく、いじめや虐待、貧困などによる家庭・生活環境の問題も関わっている。複雑・多様化した問題の解決を学校のみで目指すことは容易ではない。個人の問題に即して、校内はもとより、家庭や校外専門機関との連携をも強化しつつ、問題の改善・解消を目指す支援と体制づくりが重要である。このため、学校現場での臨床講義として事例に即した支援に関わりながら、コーディネートの方法論を学び、必要性和有効性、課題についての理解を深める。			
授業計画 第1回：第1回：基調講義：特別支援コーディネートの動向と基本的な考え方（吉川） 第2回：講義：フィールド校の運営と支援体制・課題（学校長）/ 議論と省察（吉川） 第3回：講義：フィールド校の心理社会的課題（校内コーディネータ（Co）とスクールカウンセラー（SC））/ 議論と省察（吉川） 第4回：支援のための問題の整理：受講者2名で要支援児童1名を事例として担当（吉川、Co、SC） 第5回：不足資料の収集：対象児面談/担任教師面談/基礎資料/行動観察、など（吉川、Co、SC） 第6回：支援の企画と提案（吉川、学校長、担任教員、Co、SC） 第7回：前半：支援資料収集①行動観察とアセスメント、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第8回：前半：支援資料収集②要支援児童へのヒアリング、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第9回：前半：支援資料収集③必要な支援の立案、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第10回：前半：支援資料収集④立案した支援の実施、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第11回：前半：支援資料収集⑤支援の有効性の検討、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第12回：校内支援会議での報告と議論・省察（吉川、学校教員、Co、SC） 第13回：前半：支援資料収集⑥次の支援の立案、後半：議論・省察（吉川、Co、SC） 第14回：前半：支援資料収集⑦支援の有効性の検討と児の変化、後半：議論・省察（吉川、Co、SC）			

第15回：総合議論と省察（吉川、学校長、担任教員、Co、SC）

テキスト 特になし

参考書・参考資料等

参考図書：子どもにえらばれるためのスクールソーシャルワーク、山下英三郎監修、学苑社

参考資料：授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

毎回授業の省察：60%、総合議論を踏まえて作成したレポート：40%として評価
--

授業科目名： 支援を必要とする子ども の評価と支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 宏明 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：発達、含む領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の評価と支援に関する基本事項や最近の動向について理解する。			
授業の概要 本授業では、まず、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の評価と支援に関する基本事項（評価面接、行動観察、認知機能検査、心理検査等）や最近の動向（国際生活機能分類に基づく包括的・総合的評価等）について解説する。その上で、評価と支援の目的や内容、方法についての、事例を示しながらの解説や、グループディスカッションを通じた具体的検討をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価に関する基本事項1（評価面接と行動観察） 第3回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価に関する基本事項2（認知機能検査、心理検査） 第4回：特別支援教育の対象となる幼児等の指導に関する基本事項1（自立活動に基づく支援） 第5回：特別支援教育の対象となる幼児等の指導に関する基本事項2（インクルーシブ教育システム） 第6回：特別支援教育の対象となる幼児等の指導に関する基本事項3（基礎的環境整備、合理的配慮） 第7回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価に関する最近の動向1（国際生活機能分類） 第8回：特別支援教育の対象となる幼児等の指導に関する最近の動向2（多面的・包括的支援） 第9回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価と支援の実際1（言語聴覚障害の事例解説1） 第10回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価と支援の実際2（言語聴覚障害の事例解説2） 第11回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価と支援の実際3（発達障害の事例解説1） 第12回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価と支援の実際4（発達障害の事例解説2） 第13回：特別支援教育の対象となる幼児等の評価を考える（グループディスカッション） 第14回：特別支援教育の対象となる幼児等の支援を考える1（グループディスカッション） 第15回：特別支援教育の対象となる幼児等の支援を考える2（グループディスカッション） 定期試験			

テキスト

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示,文部科学省）

参考書・参考資料等

新・教職課程 第6巻 特別支援教育（米田宏樹，川合紀宗編著，協働出版，2022）

基礎からわかる言語障害児教育（日本言語障害児教育研究会編，学苑社，2017）

学齢期吃音の指導・支援 改訂第2版:ICFに基づいたアセスメントプログラム（小林宏明,学苑社,2014,）

学生に対する評価

毎回の授業で行う小課題（30%）、中間レポート（20%）、期末レポート（発表を含む）（50%）

授業科目名： 特別支援教育の専門知識	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉村 優子
			担当形態： 単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育に関する専門的な知識を修得し、障害特性や心身の発達と関連付けて支援方法を考えることができる。			
授業の概要 通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする児童生徒の特性および心身の発達を理解するとともに、多様な学びの場において子どもたちが学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童生徒の学習上又は生活上の困難を把握し、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、特別支援教育の歴史的変遷とインクルーシブ教育システムの概要 第2回：障害の理解と支援 第3回：多様な学びの場と特別支援教育の教育課程 第4回：通級指導教室と特別支援学級 第5回：知的障害の理解と支援 第6回：学齢期の発達障害の理解と支援（自閉スペクトラム症） 第7回：思春期・青年期の発達障害の理解と支援（自閉スペクトラム症） 第8回：学齢期の発達障害の理解と支援（注意欠如・多動症） 第9回：思春期・青年期の発達障害の理解と支援（注意欠如・多動症） 第10回：学習障害の理解と支援（概説） 第11回：学習障害の理解と支援（テーマディスカッション） 第12回：発達性協調運動症の理解と支援 第13回：アセスメントと個別の支援計画 第14回：学校・家庭・関係機関との連携 第15回：特別支援教育の今日的課題 定期試験			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等

大阪大学大学院連合小児発達学研究科（監修）発達障がい：病態から支援まで 朝倉書店
授業の内容に応じて適宜参考となる文献を紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業で行う小課題（30%）、最終レポート（70%）

授業科目名： 発達障害の理解と対応A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武居 渡 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域:発達、含む領域:聴・知・肢・病弱)		
授業のテーマ及び到達目標 身体障害や知的障害、発達障害の教育、心理、生理・病理に関わる基本的な知識を得たうえで、様々な支援事例を通して必要な手立てを提案できるようになる。			
授業の概要 前半では聴覚障害、知的障害、肢体不自由、発達障害、言語障害についての教育や心理、生理に関する基本的な知識について講義をし、支援の実際について実践報告やディスカッションを通して理解を深める。後半はこれまで各自が会ってきた支援を必要とする子どもに関する実践について取り上げ、必要な支援について議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・聴覚障害とは（講義） 第2回：聴覚障害のある子どもの教育実践から学ぶ（演習） 第3回：肢体不自由とは（講義） 第4回：肢体不自由のある子どもの教育実践から学ぶ（演習） 第5回：言語障害とは（講義） 第6回：言語障害のある子どもの教育実践から学ぶ（演習） 第7回：発達障害とは（講義） 第8回：発達障害のある子どもの教育実践から学ぶ（演習） 第9回：知的障害とは（講義） 第10回：知的障害のある子どもの教育実践から学ぶ（演習） 第11回：事例検討（1）小学校通常級の事例とディスカッション（演習） 第12回：事例検討（2）中学校通常級の事例とディスカッション（演習） 第13回：事例検討（3）高校の事例とディスカッション（演習） 第14回：事例検討（4）特別支援学級の事例とディスカッション（演習） 第15回：事例検討（5）特別支援学校の事例とディスカッション（演習） 第16回：全体のまとめとディスカッション（演習）			

テキスト なし

参考書・参考資料等 本郷一夫・大伴潔 (2022) 障害者・障害児心理学. ミネルヴァ書房.

学生に対する評価

省察シート15回 (3点×15) 各自の発表 (25点) 最終レポート (30点)

授業科目名： 共生教育カンファレンスⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川 一義・武居 渡・ 田部 絢子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 <p>障害のある子どもに対する教育を包摂する共生教育の実現を考えていくうえで、現代日本の学校で実際に生じている問題とその解決に向けた実践の具体事例を小グループで分析し検討することを通して、教職大学院の各科目での学習を相互に関連づけ、教育実践を包括的かつ分析的に捉える力量の育成を目指す。</p>			
授業の概要 <p>実践事例には、受講生による実習での実践報告の他、受講者の経験や、必要に応じて実践記録などの資料を用いる。教員はそれぞれ小グループに属し、議論のファシリテーションを行う。授業は共生教育カンファレンスⅡと同時開講で行い、通年開講とする。異学年が混在することによって、受講生には障害のある子どもに対する教育を包摂する共生教育について多角的な視野からの検証や学習が期待される。</p>			
授業計画 <p>この科目は全15回の全てについて担当教員全員が共同で実施する。授業は、1か月に2回分を集中講義形式で行い、通年開講とする。各報告・検討の時間及び全員の積極的な議論への参加を確保するため、必要に応じて小グループに分かれて議論を行う。</p> <p>第1・2回：（5月）共生教育カンファレンスの理論、各自の教育実践・研究経験の省察 第3・4回：（6月）特別支援学校実習Ⅱの中間報告・検討会（2年次学生前半） 第5・6回：（7月）特別支援学校実習Ⅱの中間報告・検討会（2年次学生後半） 第7・8回：（9月）特別支援学校実習Ⅰの中間報告・検討会、附属学校園の研究紀要検討（1年次学生全員） 第9・10回：（10月）特別支援学校実習Ⅰの報告・検討（1年次学生全員） 第11・12回：（11月）特別支援学校実習Ⅱにおける研究の中間報告・検討（2年次学生前半） 第13・14回：（12月）特別支援学校実習Ⅱにおける研究の中間報告・検討（2年次学生後半） 第15回：（2月）研究発表会（受講生と担当教員の他、関係者にも公開する。）</p>			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等 文部科学省（2018）特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

学生に対する評価

授業や研究発表会における課題への取り組み（50％）と、それらをまとめる最終課題（50％）により評価する。特に、自己の経験や思考を、諸々の理論や学習内容と関連付けて省察し、他者との議論を通してそれを再構築しているかを重要な評価の観点とする。

授業科目名： 共生教育カンファレンスⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川 一義・武居 渡・ 田部 絢子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 <p>障害のある子どもに対する教育を包摂する共生教育の実現を考えていくうえで、現代日本の学校で実際に生じている問題とその解決に向けた実践の具体事例を小グループで分析し検討することを通して、教職大学院の各科目での学習を相互に関連づけ、教育実践を包括的かつ分析的に捉える力量の育成を目指す。</p>			
授業の概要 <p>実践事例には、受講生による実習での実践報告の他、受講者の経験や、必要に応じて実践記録などの資料を用いる。教員はそれぞれ小グループに属し、議論のファシリテーションを行う。授業は共生教育カンファレンスⅠと同時開講で行い、通年開講とする。異学年が混在することによって、受講生には障害のある子どもに対する教育を包摂する共生教育について多角的な視野からの検証や学習が期待される。</p>			
授業計画 <p>この科目は全15回の全てについて担当教員全員が共同で実施する。授業は、1か月に2回分を集中講義形式で行い、通年開講とする。各報告・検討の時間及び全員の積極的な議論への参加を確保するため、必要に応じて小グループに分かれて議論を行う。</p> <p>第1・2回：（5月）共生教育カンファレンスの理論、各自の教育実践・研究経験の省察 第3・4回：（6月）特別支援学校実習Ⅱの中間報告・検討会（2年次学生前半） 第5・6回：（7月）特別支援学校実習Ⅱの中間報告・検討会（2年次学生後半） 第7・8回：（9月）特別支援学校実習Ⅰの中間報告・検討会、附属学校園の研究紀要検討（1年次学生全員） 第9・10回：（10月）特別支援学校実習Ⅰの報告・検討（1年次学生全員） 第11・12回：（11月）特別支援学校実習Ⅱにおける研究の中間報告・検討（2年次学生前半） 第13・14回：（12月）特別支援学校実習Ⅱにおける研究の中間報告・検討（2年次学生後半） 第15回：（2月）研究発表会（受講生と担当教員の他、関係者にも公開する。）</p>			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

学生に対する評価

授業や研究発表会における課題への取り組み（50％）と、それらをまとめる最終課題（50％）により評価する。特に、自己の経験や思考を、諸々の理論や学習内容と関連付けて省察し、他者との議論を通してそれを再構築しているかを重要な評価の観点とする。

授業科目名： 特別支援学校実習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川 一義・武居 渡・ 田部 絢子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>附属特別支援学校あるいは附属小学校通級指導教室において、附属学校教員の指導・助言のもと児童生徒に対する指導を通じて、障害のある子どもを支援する能力や児童生徒の実態に即した適切な指導力を身に付け、その経験から、特別支援教育に関わる学校経営や授業等に関わる課題を明確にし、改善のための研究課題を設定することを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>附属特別支援学校あるいは附属小学校通級指導教室に定期的に通い、附属学校教員の指導・助言のもと、障害のある子どもの実態を把握し、適切な指導目標を設定し、附属学校教員と協働して、授業実践やその補助を行う。その上で次回授業に向けての課題を整理し、次の授業の目標を設定することを繰り返し、特別支援教育に関する児童生徒に対する見方を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>附属特別支援学校あるいは附属小学校通級指導教室へ定期的に通い、附属学校教員の指導・助言のもと、障害のある子どもの児童生徒の実態に即した指導を行う。指導については、障害のある子どもに対する授業の実施やサブティーチャーとしての授業補助、学校行事での指導等、様々な指導の関わり方が考えられる。児童生徒の実態や指導教員との協議を踏まえ、適切な指導を行う。</p> <p>これらの活動を通じて、2年次に取り組む課題研究のテーマを明確化する。各自で取り組む研究課題の明確化を促すため、附属学校教員及び大学の指導教員による指導・助言を受ける。大学教員の指導・助言は、週1回、専任教員の巡回によって行う。</p>			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業研究を通して、特別支援教育をデザインする理論と実践の往還の過程における、理論の精緻化及び実践の有効性の進歩を、附属学校園教員と大学教員、本人の三者面談を通して総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 特別支援学校実習ⅡA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 8単位	担当教員名： 吉川 一義・武居 渡・ 田部 絢子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 <p>「特別支援学校実習Ⅰ」で設定した課題の解決のための実習と位置づけて、学校経営や授業改善等、学校教育課題の解決を達成することを目的とする。特別支援学校実習ⅡAは、将来のスクールリーダーとして、特別支援教育に関する授業改善、学校経営などに関わる教育的課題を明確にし、課題解決・達成に向けての改善策を企画・策定し、その改善策の実践、評価を通じて、理論と実践を往還した教育改善を進める能力の獲得を目指す。</p>			
授業の概要 <p>各勤務校に戻った現職教員大学院生が、週1日、勤務校における特別支援教育の実践の中で、課題研究の検証・解決に取り組む。週1日は、大学院において「実践研究Ⅱ」及び「共生教育カンファレンスⅡ」を受講し、各自の研究課題に対する取り組み状況を報告・議論する。</p>			
授業計画 <p>各勤務校に戻った現職教員大学院生が、週1日、勤務校における特別支援教育の実践の中で、課題研究の検証・解決に取り組む。</p> <p>1年次に設定した障害のある子どもへの教科指導や生活・生徒指導等、児童生徒の学習を巡る研究課題について検証・解決に取り組む。あわせて、管理職の指導・助言のもと、学校経営や組織に関する研究課題について検証・解決に取り組むほか、ストレートマスターのメンタリングを行う。</p>			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領			
学生に対する評価 <p>障害のある子どもに対する授業研究や生活指導の実践を通して、特別支援教育の環境をデザインする理論と実践の往還の過程における、理論の精緻化及び実践の有効性の進歩について、勤務校管理職、大学教員、本人の三者面談を通して総合的に評価する。総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 特別支援学校実習ⅡB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 8単位	担当教員名： 吉川 一義・武居 渡・ 田部 絢子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「特別支援学校実習Ⅰ」で設定した課題の解決のための実習と位置づけて、学校経営や授業改善等、学校教育課題の解決を達成することを目的とする。「特別支援学校実習ⅡB」は、将来のスクールリーダーとして、特別支援教育に関する授業改善、学校経営などに関わる教育的課題を明確にし、課題解決・達成に向けての改善策を企画・策定し、その改善策の実践、評価を通じて、理論と実践を往還した教育改善を進める能力の獲得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現職教員大学院生の所属する連携協力校において通年で週2日、特別支援教育に関する活動の観察・参加、研究課題の検証・解決を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>現職教員大学院生の所属する連携協力校において通年で週2日、特別支援教育に関する教育活動の観察・参加を行う。観察においては、障害のある子どもに対する授業や生徒指導、特別活動、生活指導等、学校教育活動全体の実際を知り、そうした様々な教育活動が年間を通じ計画的に展開されていることを学ぶ。参加については、連携協力校の指導教員のもと1年次に設定した研究課題について、課題解決のため改善策を企画・策定・実践し、児童生徒の学習をめぐる研究課題の検証・解決に取り組む</p>			
<p>テキスト 特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>障害のある子どもに対する授業研究や生活指導の実践を通して、特別支援教育の環境をデザインする理論と実践の往還の過程における、理論の精緻化及び実践の有効性の進歩について、連携協力校管理職、大学教員、本人の三者面談を通して総合的に評価する。</p>			